

会員の声

材料メーカー勤務者の雑感

(株)クラレ 谷口 秀和

私は現在、クラレが持つ材料を手に、主に土木・建築分野での適用を進めるために、日夜活動しております。活動の範囲は、ジオシンセティックスの分野はもちろん、例えばコンクリート補強用の繊維製品を扱っている事から他分野にも及び、また、官公庁、研究機関、民間等仕事があるところを見つけ全国（場合によっては全世界？）に行きます。その中で感じた事を少々、述べてみたいと思います。

1. 専門性が高い分野である

土木・建築分野はその言葉で表す事がはばかれるほど、その中で多くの分野に細分化されているように感じます。例えば、私はジオシンセティックス関連の学会の他に、コンクリート関連の学会にも参加する機会があるのですが、同じ顔を見かける事はあまり多くはありません。さらに、ジオシンセティックス、コンクリート分野ともに、さらに細分化された用途があり、それぞれ集まる顔ぶれが違います。細分化された各用途に専門的な知識が要求されるのではと考えられますが、違う分野の専門家が集まって何かしらの開発をすれば、面白い展開が可能になるのではと考えております。

2. 多くの人が携わっている

当分野には様々なポジションで多くの方々が関わっている事を感じます。例えば一つの工法を開発するためには、工法の設計担当、実際の工事担当、各種試験担当、材料供給担当等が必要かと思えます。さらに工法を普及する際には、工法自体の開発担当者はもちろんのこと、実際に販売するための担当者、発注者、設計者、施工者、評価者（さらには競合となる工法や社会情勢）等が関係してくるかと思えます。おそらく、各担当者のいずれを欠いても工法開発は出来なんでしょうし、普及するためには関係者の努力が不可欠であると思えます。多くの人が情熱をもって普及に努めれば、その工法の未来は明るいでしょうし、そうでなければ、優れた面をもっていたとしても、普及しないのではないのでしょうか。

3. 材料の位置付けについて

工法において、特にクラレが扱う材料はあまり表面に出てくる事はありません。（例えば、盛土補強材のグリッドは人目に触れることなく、ほとんどの場合、土の中に一生埋まっています）また、材料自体で工法が成り立つ事はなく、あくまで工法の中で使われるものです。工法によって活かされている性格のものと言えるのではないかと思います。

材料メーカーという立場で当分野に関わっている者としては、材料がより活かされるよう、分野の垣根を越えて技術を結びつけるような活動が出来ればと思います。その中で、多くの方々と、価値ある新しいものを開発し広めていく過程に、少しでも多く携わる事が出来ればと考えております。今後とも、多くの方々とやり取りが出来れば幸いと存じますので、どうぞ宜しくお願い致します。